

## とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園番号	2023415
園名	日野台幼稚園

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

イメージによる運動遊び

<テーマの設定理由>

子どもたちは海のいきものが大好きで、図鑑をみたり、箱制作でつくったりしている。子どもが楽しめる「うみのそこたんけん」の絵本のイメージでこどものやりたいという思いを発展させて身体を動かしたり、表現することを積み重ねプレーデー（運動会）を行うため

### 2. 活動スケジュール

- 8月・・・夏休みの経験の発表から海のイメージでのリズム遊び  
海の箱制作
- 9月・・・絵本の読み聞かせ。「いいな」「やってみたい」という声上がる。  
探検に行くというイメージでサーキット（障害物競走）をする。  
「もっとこうしたら」子どもたちからアイデアがでる。  
いろいろなパターンで海の底探検を楽しむ。また制作の活動や自由遊びで  
うみづくりを楽しんでいく。  
海のイメージのダンスを紹介。繰り返し楽しむ
- 10月・・・【運動会前日】海ポーズからお手紙が届き、海ポーズが見に来て応援してくれていることをする。プレーデー（運動会）を楽しみにする  
【運動会当日】最後に海ポーズから手紙と一っしょにプレゼントが届く  
【運動会后】  
他学年のやっていた競技をみてやってみたいという声があがり遊びや活動で楽しむ。  
ビニールひもをさいて波にみたてたものをつかって海ごっこが始まる。  
「海ポーズに手紙をかきたい」という声があがる。手紙をいれるポスターを設置する。手紙やプレゼントをいれる

### 3. 探究活動の実践

#### <活動の内容>

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定
- ・活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり 等を記載ください。

8月・・海的话题を増やしていく。また遊びのなかで海のいきものをつくれるように保育保育環境をととのえる。

9月・・読み聞かせをきっかけに「探検に行く」遊びがはじまる。

「ここは〇〇なことね」「僕のカニおいたらいいんじゃない」

運動遊びのきっかけとなるイメージをこどもたちとつくっていく。

引き続き、海づくりがたのしめるような活動や遊びの準備をしていく。

保育室にビニールひもをたくさんさいてさげたり、ボードに絵具で海を表現したり、海コーナーをこどもと準備する。

「ジンベエザメつくりたい」というこえからカラービニール袋で立体のうみのいきものづくりがはじまる。小さいクラスにおしえてあげるお店ができる。宣伝のポスターづくりをするこどももでてくる。

運動あそびの活動を繰り返すうちにその動きそのものを楽しむようになり、はやくやろうとしたり、動きを工夫する姿がみられる。

自分の作ったものを飾りたい、ここに置きたいという意見がでる。

主人公と同じになりたいと考える子がいてカメラづくりもはじまる。

うみのイメージのダンスではより海の表現ができるよう、シフォンスカーフを使うようにする。さらに表現の幅がひろがり、より楽しんでおどるようになり、やりたいというリクエストが増えた。

10月 海ぼーずからの手紙でこどもたちは当日を楽しみにして、意欲がました。

またがんばったねとプレゼントをもらったことは喜びとなった。

運動会後は応援しながら「あれやりたい」「またやりたい」という声があがった。遊びや活動で運動遊びを楽しんだ。

海ぼーずが大好きになり、「海ぼーずに手紙書きたい」「プレゼントあげたい」という声があがる。ポストを設置して思いが叶うように準備



#### 4. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

こどもたちが海好きであったことと絵本が子どもたちの意欲につながる内容だったので継続して楽しむことができました。こどもたちから「こうしたい」「こんなのいいんじゃない」と意見がでてきたことを形に出来るよう配慮した。今回は絵本の力がとても大きく、海というイメージしやすい題材だったので、とても楽しめた。

また全学年同じテーマで取り組んだので、特に年長の取り組みにあこがれる小さいクラスの子どもの様子があり、年長児も教えてあげたり、お店になったり、異年齢の良い交流となった。

海ぼーずはこどもたちにとってとても大好きな存在であり、手紙がくることでさらに意欲が高まった。ファンタジーの世界を楽しめるこどもたち。そのことをきっかけに運動遊びをすることは苦手意識のあるこどもたちにとってごっこを楽しむこととつながり、抵抗が減るように思う。きっかけはごっこのようなつもりでも動きそのもののおもしろさをこどもは感じ、「またやりたい」という思いを持つことができると改めて実感し、運動会をプレイデーとして楽しむことはこどもたちにとって良い運動遊びの経験となるとおもう。当園ではこの形をずっとつづけている。年長などは過去の経験からプレイデーの楽しさを知っているため、「今年は「うみのそこたんけん」でプレイデーだ！」と気合がはいる。今後も幼児期にあった運動会の取り組みとしてプレイデーを続けていきたいと思う。